

第3期 飯田市中心市街地活性化基本計画の概要

飯田市産業経済部 商業・市街地活性化課



1. 基本計画の概要

計画名称	第3期 飯田市中心市街地活性化基本計画
計画認定	2020年6月(予定) 内閣総理大臣認定
計画期間	2020年(令和2)7月～2026年(令和8)3月 【5年9カ月】
計画区域	148.4ha
基本理念	「飯田美しき町」 魅力的な丘のまちの形成
推進事業	29事業



2. 基本計画の区域

■ 区域面積 約148.4ha



3. 中心市街地の位置づけ

■長野県都市計画区域マスタープラン(平成16年5月策定)

本マスタープランの「飯田都市計画(飯田市)都市計画の区域の整備、開発及び保全の方針で掲げる、本市を含む14市町村から成る飯伊圏域の「都市計画の目標」において、飯田駅周辺の中心市街地を都市拠点と位置づけ、中心市街地での交流の場としての賑わいの創出、地域の特性を活かした商業活性化、居住の促進、交通アクセスや交通環境の向上都市機能の強化と都市空間の魅力づくり等を図っている。

■いいだ未来デザイン2028(平成28年12月策定)

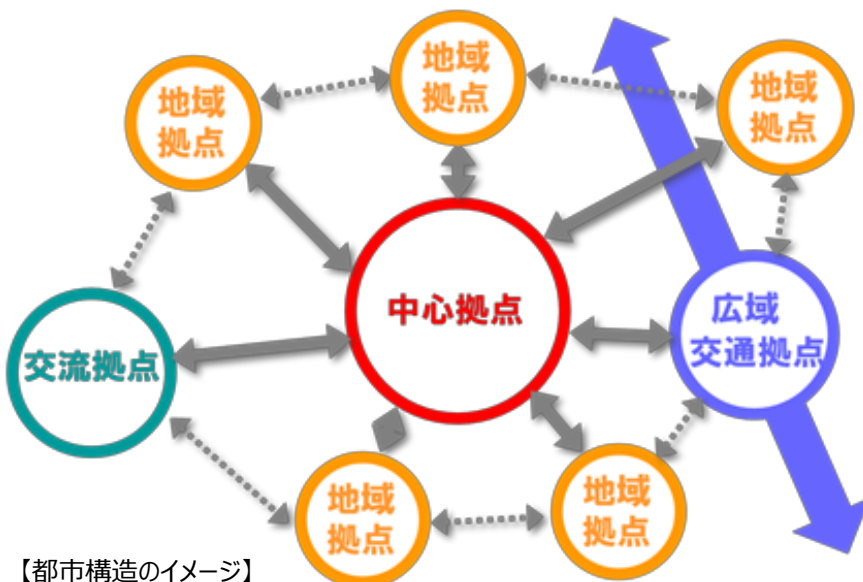
12の基本目標のうち「基本目標2:飯田市への人の流れをつくる」での戦略的な考え方として、「リニア中央新幹線長野県駅(仮称)を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進」することが挙げられている。

■飯田市土地利用基本方針(平成19年7月策定)

中心拠点、地域拠点及び交流拠点並びに広域交通拠点が、それぞれの役割分担に応じて機能分担がなされ、有機的に相互連携した「拠点集約連携型都市構造」を掲げ、「いいだ山里街づくり推進計画」(飯田市版立地適正化計画)をR2.4月より運用し、具現化を図るものとする。

■リニア推進ロードマップ(平成25年4月策定)

3つの柱のうち「戦略的地域づくり」では、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進することを掲げ、それを踏まえた第3期中心市街地活性化基本計画の策定を行うとしている。



【都市構造のイメージ】

【中心拠点】

様々な都市機能が蓄積され、都市の中心としての機能を持ち、いわゆる飯田市の「顔」である中心市街地を「中心拠点」として位置づける。

【地域拠点】

各地区の市役所自治振興センターや公民館等のコミュニティ施設が集積された中心部を「地域拠点」と位置づける。

【交流拠点】

天龍峡エコバレー地域を環境、産業、生活等の新たな「交流拠点」として位置づける。

【広域交通拠点】

リニア駅及びその周辺区域を地域と大都市とを結ぶ「広域交通拠点」として位置づける。



4. 第3期計画の基本的な考え方

【策定方針のイメージ】

中心拠点の将来像

○中心市街地エリア3地区の目指す姿

橋北地区
基本構想

橋南地区
基本構想

東野地区
基本構想

○関係5地区(橋北・橋南・羽場・丸山・東野)の共通課題

羽場地区

丸山地区

○拠点集約連携型都市構造の中心拠点の位置づけ

豊かなまちの暮らしの実現

ソフト・ハード 実行計画

○地域独自の実行計画 ○中心市街地活性化基本計画

○(民間)都市再生整備計画事業 ○地域再生計画

橋北地区
の取組

橋南地区
の取組

東野地区
の取組

団体・NPOの取組

行政の取組

【策定の方針】

○飯田市の中心市街地の活性化に向けたこれまでの取り組み、積み残された課題、新たな変化を踏まえ、中心市街地に関連するビジョンを共有し、これを具現化する**実行計画としての街づくり計画(中心市街地活性化基本計画)**を策定します。

○計画の段階から実行に至るまで、関係する**市民や地域、事業者ほか多様な主体の力を地域力に集結し、当地域におけるリニア時代の中心拠点となる豊かな「丘のまち」の暮らしを共創し、実現していきます。**

※計画策定の背景(中心市街地の現状)

- ① これまでの取り組み
 - ・ 第2期計画までの一定の成果(基盤整備40事業、ソフト21事業の充実)
 - ・ りんご並木周辺の深化(動物園における入園者の増加、りんご並木再整備の完了)
 - ・ りんご並木歩行者天国等のイベントによる求心力の推進、りんご並木まちづくりネットワークを始めとする様々な担い手等の集結
- ② 積み残された課題
 - ・ 続く市街地の人口減少、少子化、高齢化と地域力の衰退
 - ・ まちなか商店街の高齢化と衰退。魅力低下を踏まえた人づくり、商品づくり
 - ・ 恒常的な街の賑わい
- ③ 新たな変化
 - ・ 中心市街地関連地区による将来像づくりの検討(橋北、橋南)と、具体的な取り組みの動きが開始(羽場、丸山、東野)
 - ・ リニア長野県駅設置に向けた動きと拠点集約連携型都市構造における中心拠点の位置づけ。



5. 共創と協働によるまちづくりの行動計画



【産官学民連携により事業を推進】

策定の方針を受け、**飯田丘のまち会議**(地域・企業・活動団体からなる46団体、74名の市民等が参加)では、5つのテーマについて議論しました。リニア時代の丘のまちの姿を目指し、多様な主体が協働で取り組む「**みんなの10年行動計画**」を策定し活動していきます。

■ 飯田丘のまち会議の取り組み

飯田丘のまち会議では、中心市街地の3地区による「地区基本構想・基本計画」を踏まえ、リニア中央新幹線開通後の大交流時代に向けて、「エリアとしての特殊性(中心性・拠点性)」「この地域だからこそやるべきことの検討」「ハレの場、南信州圏域の顔として自分たちの取り組むこと」を議論の出発点として、「中心市街地ならではの取り組み」「市民ならではの取り組み」を検討しました。この計画は、中心市街地の目的と役割を踏まえ、第3期中心市街地活性化基本計画と相互連携の元、みんなの10年行動計画書として、多様な主体が協働で取り組む活動や事業の指針とします。

第3期中心市街地活性化基本計画は、この「**みんなの10年行動計画書**」による多様な分野の人々が主体となって共創し、活動する前期5年間の取り組みの**実行計画として各事業を推進**します。

「みんなの10年行動計画書」の位置づけと構成

中心市街地3地区の基本構想・基本計画の将来イメージ

橋北地区(2019~2028)	橋南地区(2019~2028)	東野地区(2018~2027)
誰もが安心して暮らせる 春草を生んだ歴史と文化の香り高い きらめくまち橋北	中心市街地・橋南は城下町の 歴史や文化・りんご並木とともに 生き続ける	桜並木を大切に、歴史と伝統を 守る、人にやさしいまち・東野

みんなの10年行動計画(2020~2029)

【基本理念】 みんなで創る、みんなのステージ、丘のまち

—集う・語り合う・表現する—

リニア時代にむけて 私たちが創る丘のまち

住まいと暮らし

住んでいる人が安心して「定住」でき、外からの「来住」が増え、地域や多世代と交流しながら、安心で快適な暮らしが息づくまち

賑わいづくり

日常的に人々が訪れ、集い、楽しみ、仕事やビジネスチャンスが増え、交流とコミュニティによる賑わいが生まれるまち

都市デザイン

「丘の上」の歴史・文化・伝統を活かした町並みとスポットを創出し、多くの人々を引きつける学びと魅力がふれるまち

ライフスタイル

活動団体同士が情報共有できる場所・プラットフォームを創出し、日常的、定例的に、多世代と地域がつながるまち

都市機能

リニア時代、交通体系を見据え、都市機能の変化、配置のあり方を追求、より効率・都市力の高いまち

〈ともに取り組む先導的事業〉 飯田丘のまち会議で出された特に力点をおくべきもの

1. 美しく、居心地の良い創造のまちづくり(空き家・空き店舗活用)
2. 笑顔溢れる交流拠点づくり(多世代交流)
3. 歩き、巡りたくなるまちづくり(回遊性創出・活用・整備)



第3期飯田市中心市街地活性化基本計画

【テーマ】 飯田 美しき町
魅力的な丘のまちの形成

【計画期間】 2020年7月~2026年3月(5年9ヵ月)

【計画区域】 148.4ha 【推進事業】 29事業



6. 基本方針と目標

【中心市街地活性化の基本理念】

「飯田美しき町」 魅力的な丘のまちの形成

【中心市街地活性化の基本方針】

美しき丘のまちの
賑わい風景づくり

多世代の連携と共創による
魅力づくり

居心地の良い暮らしが息づく
まちづくり

リニア時代に向けた求心力の
あるまちづくり

【中心市街地活性化の目標】

目標①
美しい丘のまちのデザインづくり

桜並木整備事業や春草通り活用事業等により、既存の資源と美しい景観や空間で結ぶことで、相乗効果を生み出し、中心市街地全体の活性化を目指す。

目標②
丘のまちの居場所・交流空間づくり

多世代交流拠点や健康福祉拠点等により、第3の居場所を創出し、多様な主体が連携し、産官学民連携の活動をともに行うことで、丘のまちの魅力向上を目指す。

目標③
丘のまちの快適な暮らし創造

空き家・空き店舗の活用や仕組みづくりを通じて、若者が働く場や居住環境の整備等を推進し、多世代が安心して暮らせる居住環境づくりを目指す。

目標④
丘のまちの新たな価値創造

歴史資源や既存資源の活用事業や最新技術の導入等により、新たな価値を創造し、中心市街地全体の求心力と回遊性の創出を目指す。

【数値目標】

歩行者・自転車通行量（休日）

現状数値（平成30年度）
9,475人／日

目標数値（令和7年度）
10,400人／日

都市福利施設利用者数（年間）【補完指標】 官民の連携数

現状数値（平成30年度）
209,214人／年

目標数値（令和7年度）
214,800人／年

現状数値（平成30年度）
22団体

目標数値（令和7年度）
46団体

新規出店数

現状数値
（平成20年～30年度平均）
3店舗（1年間）

目標数値
（令和2～7年総数）
30店舗（6年間）

文化・交流施設利用者数（年間）

現状数値（平成30年）
284,094人／年

目標数値
（令和7年）
299,600人／年



7. 基本計画の事業及び箇所図

市街地の整備改善 3事業

- まちのデザイン研究事業
- 春草通り活用事業
- 桜並木整備事業

都市福利の推進 7事業

- ライフスタイルの低炭素化事業
- 多世代交流拠点事業
- 丘のまち情報交流サロン事業
- 旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業
- 高校生と丘のまちを繋ぐ事業
- 子育て世代包括支援事業
- 健康福祉拠点活用事業

まちなか居住の推進 4事業

- 地区空き家バンク連携事業
- 空き家・空き店舗活用事業
- セカンドオフィス・セカンドハウス等誘導事業
- 多機能型・多世代向け住宅づくりの研究

他事業と一体的に推進 2事業

- 環境にやさしい交通社会形成事業
- 丘のまちミュージアム活用事業

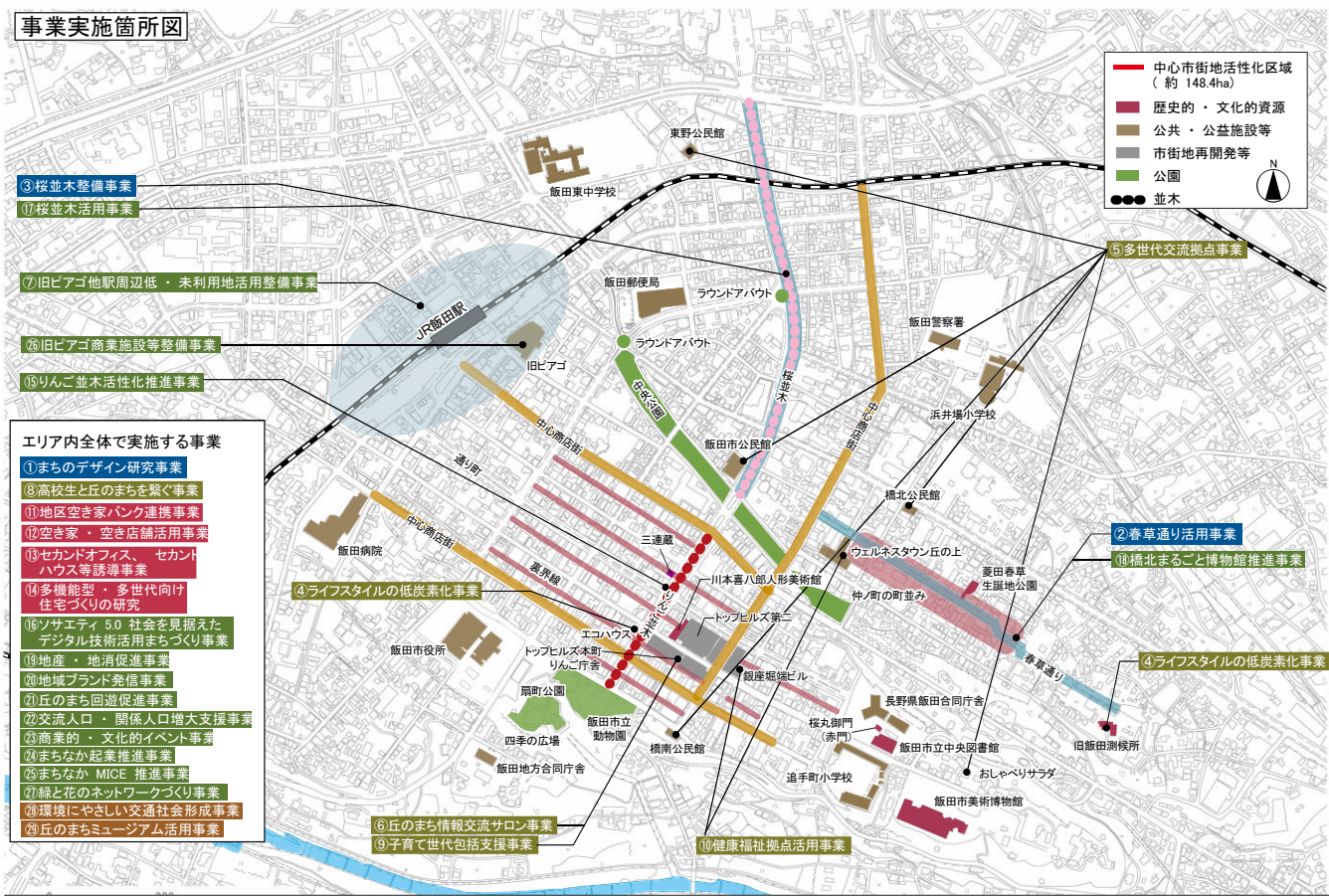
経済活力の向上

- りんご並木活性化推進事業
- ソサエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業
- 桜並木活用事業
- 橋北まるごと博物館推進事業
- 地産・地消促進事業
- 地域ブランド発信事業
- 丘のまち回遊促進事業

13事業

- 交流人口・関係人口増大支援事業
- 商業的・文化的イベント事業
- まちなか起業推進事業
- まちなかMICE推進事業
- 旧ピアゴ商業施設等整備事業
- 緑と花のネットワークづくり事業

事業実施箇所図



- エリア内全体で実施する事業
- ①まちのデザイン研究事業
 - ⑧高校生と丘のまちを繋ぐ事業
 - ⑪地区空き家バンク連携事業
 - ⑫空き家・空き店舗活用事業
 - ⑬セカンドオフィス・セカンドハウス等誘導事業
 - ⑭多機能型・多世代向け住宅づくりの研究
 - ⑮ソサエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業
 - ⑯地産・地消促進事業
 - ⑰地域ブランド発信事業
 - ⑱丘のまち回遊促進事業
 - ⑲交流人口・関係人口増大支援事業
 - ⑳商業的・文化的イベント事業
 - ㉑まちなか起業推進事業
 - ㉒まちなかMICE推進事業
 - ㉓緑と花のネットワークづくり事業
 - ㉔環境にやさしい交通社会形成事業
 - ㉕丘のまちミュージアム活用事業